

2014年度 東京大学駒場博物館 所蔵品展

「修復された一高歴史画」

会場：東京大学駒場博物館 1F 南側展示室

会期：2014年12月15日（月）～12月26日（金）

休館日なし（会期中は土・日・祝日も開館します）

開館時間：10時～18時（ただし入館は17時30分まで）



「西行法師之図」橋本雅邦 237.0×139.5 cm 絹本着色
一高受け入れ年度：明治25年（1892）3月25日

現在、東京大学駒場博物館には本学教養学部の前身である一高（当時は第一高等中学校）より受け継がれてきた明治期の絵画が所蔵されています。これらの作品のうち30数点は当時構想された歴史参考室におかれるものとして発注され、開校間もない東京美術学校（現、東京芸術大学）の成立に所縁のある画家たちによって制作されたものです。内容は上代から江戸時代に至る歴史上の重要事件や人物、儀礼、風俗に取材したいわゆる「歴史画」であり、国史および倫理の教材としての役割を担っていたと考えられます。

保存状態が良くなく、長らく公開することが不可能だったこれらの「一高歴史画」の中から、公益財団法人石橋財団等の助成により修復が終了した7作品を今回の当館所蔵品展で公開することになりました。短い会期ではありますが、明治時代の国のかたちと教育の姿が垣間みえるのではないのでしょうか。また、残りの作品の修復作業も進めており、全ての修復が終了したあかつきには特別展の開催を予定しております。ご期待ください。